

小学校における表現運動の指導法研究

一. 音楽教材を題材として —

吉川 京子・木本 三佳*

A Study of Teaching Methods for Expressive Movements by Using of Teaching Materials on Music

Kyoko YOSHIKAWA & Mika KIMOTO

はじめに

新しい学力観に立つ教育では、自分の考えをしっかりと持ちながら社会の変化に主体的に対応して創造的に生きるための資質や能力として、表現力の育成が重視されている。近年、学校研究に「表現活動を通して・・・」³⁾「表現力を伸ばす」⁴⁾「自己創造的表現」²⁾など、表現に関する取り組みが見られる。概要は、国語科など各教科や集会活動の中で、音声や文字、造形や絵画、表情や身振り、歌唱などの表現方法を用いて、自分の中に生まれた想いを表現するというものである。しかし、それらの中に体育科の「表現運動」は、ほとんど取り上げられていない。自分の中で生まれた感情や感動、イメージを身体を使って表現する「表現運動」は、表現力の育成には適切な教材の一つだと考えられるのに、なぜ、取り上げられていないのであろう。

その一因として「表現運動」の指導の難しさが挙げられる。「ダンス指導の現状と課題～全国小学校・中学校・高校現職教員への意識調査から～」⁷⁾によると、指導の際の障害として、「生徒が動かない」「助言の仕方がわからない」「自分で動いてみせられない」「よい資料がない」等が挙げられている。また、表現運動の授業としてカリキュラムに組み込まれているのは、小学校では、6割であり、その内の6割弱は運動会の内容としてであった。更に、年間授業時数における表現運動の配当時間をみると、文部省指導書の領域時間数の15%を満たしているのは、僅か4%と少なく、十分指導されているとは言えない結果であった。

平成元年度に改訂された学習指導要領では、

「表現運動」に関しては、従前の「軽くて柔らかい感じ」などの具体的な表現課題を削除し「身近な生活の中から題材を選んで」とされているだけであり、教師の創意工夫に任される部分が多く、幅広く題材を選ぶことができ、より弾力的に指導できるようになった。しかし、何を題材に選んだらよいかかわからず、逆に取り組みにくくしているとも考えられる。

先の意識調査⁷⁾によると、今後身につけたい内容として、「本人の実技能力を高める」「助言の仕方」「題材選択の仕方」等を挙げていた。

そこで、助言の仕方や題材選択の仕方がわかり、誰もが躊躇なく「表現運動」の指導に取り組める方法を検討する必要がある。題材選択の方法の一つとして、子どもたちにとって学習経験があり、イメージが湧きやすい他教科から選択する方法が考えられる。音楽科の歌唱教材は、イメージを広げる言葉が、歌詞の中に多く使用されており、表現運動に発展しやすい教材の一つと考えられる。

そこで、本研究では、音楽科の歌唱教材の分析、及び、表現運動の指導事例の分析を行い、学年による違いを明らかにすることによって、発達段階に応じた表現運動指導を展開させる上での基礎資料を得ることを目的とする。

1. 研究方法

1. 小学校表現運動（模倣を含む）の指導事例の抽出

雑誌「女子体育」1992年～1994年の3年間、及び、ダンスの教育学2から小学校表現運動に関する指導事例を全て抽出し、1・2学年、

*田鶴浜町立田鶴浜小学校教諭

3・4学年, 5・6学年別に分類した。

2. 他教科から題材を取り上げている表現運動の指導事例の分類

小学校表現運動の指導事例の中から, 他教科から題材を取り上げている事例を抽出し, 教科毎に分類し, その頻度を求めた。

3. 音楽教材の分析

(1) 音楽教材の分類

音楽科の教科書(教育芸術社)から全ての教材を抽出した。教科書の選定においては, 来年度から教科書が改定され, 石川県内では附属小を除くすべての小学校で教育芸術社を使用する予定になっていることから, 新版の教育芸術社の教科書を使用した。抽出した教材を, 松本らの「課題学習とダンス・イメージ・舞踊連想用語の収集・分析」⁶⁾の分類方法にしたがって, 題名から分類した。分類項目は, I 自然現象, II 生活事象, III 思想・感情・抽象の3つが大きな分類項目であり, さらに, I 自然現象を①動物②植物③自然現象, II 生活事象を④物質⑤遊び・スポーツ⑥人と生活, III 思想・感情・抽象を⑦夢・物語⑧感情⑨感覚⑩抽象概念に分類し, 全部で10項目である。次に歌詞の内容(何について歌われたものか)から同様に分類し, 頻度を求めた。その際, 鑑賞教材・リコーダー練習曲・合唱曲として扱われているものは除いて分類した。

(2) 歌詞の分析

歌詞の構造を明らかにするため, 各曲の歌詞から, 主体・主体に関する動詞・それらの言葉を修飾する言葉を抽出し, 分析した。主体とは, 歌の中心となっている生物・物体・自然・抽象概念等であり, 主体に関する動詞とは, 主体の動き・行為とした。主体・主体に関する動詞を修飾する言葉は, who(だれ), what(なに), where(どこ), when(いつ), whom(だれと), how(どのように)に分類した。

4. 表現運動の指導事例の分析

(1) 題材の分類

題材が明記されているものを抽出し, 3

(1)と同様に10項目に分類し, その頻度を求めた。

(2) 課題の分類

課題が明記されているものを抽出・分類し, その頻度を求めた。課題には題材以外に特に明記されているものを取り上げた。

(3) 動きを引き出す刺激

動きを引き出す刺激が明記されているものを抽出・分類し, その頻度を求めた。

(4) 子どもから出てきたイメージの分類

子どもからでてきたイメージが明記されているものを抽出し, 「分類語彙表」⁵⁾をもとに①動物(ほ乳類・鳥類・はちゅう類・魚類・虫類・無脊椎動物)②植物③自然現象(刺激・自然, 物体, 物質・宇宙, 空・抽象)④物質(物品・資材・衣料・食料・住居・道具・燈火・地類)⑤遊び・スポーツ⑥人と生活(身体・主体・行為)⑦夢・物語⑧感情⑨感覚⑩抽象概念に分類し, 頻度を求めた。

(5) 子どもからでてきた動きの分類

子どもからでてきた動きが明記されているものを抽出し, 全身及び身体部位別に分類した。

(6) 指導言語の分類

指導言語を全て抽出し, ①「動き」②「空間」③「時性」④「力性」⑤「身体部位」⑥「身体の形」⑦「友達との関係」⑧「擬音語・擬態語」⑨「イメージ」に分類した。分類方法は①～⑦については「ダンス創作のための諸要因」⁸⁾, ⑧については「擬音語・擬態語の読本」⁹⁾「擬音語・擬態語辞典」¹⁾, ⑨については「分類語彙表」⁵⁾に基づいて分類した。

II. 結果及び考察

1. 小学校表現運動の指導事例

指導事例は全部で136文献(203事例)であった。1・2学年に関するものが46文献(57事例), 3・4学年に関するものが49文献(87事例), 5・6学年に関するものが41文献(59事例)であった。

2. 他教科から題材を取り上げている指導事例

＜表1-1＞からわかるように、1・2学年では「生活科」「国語科」「図画工作科」「体育科」「学級活動」から17事例挙げられ、「生活科」が11事例と多かった。「生活科」から取り上げた題材には、「春み一つけた」のように探検活動を通した季節とのふれあいによるもの、「せわをした生き物」のように日常生活の中での生き物とのふれあいによるものが見られた。

＜表1-2＞からわかるように、3・4学年では「国語科」「算数科」「理科」「社会科」「図画工作科」「音楽科」から12事例挙げられ、

＜表1-1＞ 他教科から題材を取り上げている指導事例（1・2学年）

教科	題材	数	計
生活科	「春み一つけた」	1	11
	「いいものみつけた」	1	
	「あきみつけ」	1	
	「冬見つけ」	1	
	「なつのがらしとふゆのくらし」	1	
	「どうぶつれっしやではうけんた」	1	
	「どうぶつとなかよし」	1	
	「せわをしている生き物」	1	
	「お池の友だち」	1	
	「おはなしいっぱいあきがお」	1	
	「あよりだしごっこ」	1	
国語	「うさぎ」	1	2
	「お話づくり スイミー」	1	
図工	「新聞紙」	1	2
	「粘土細工」	1	
体育	「プールで泳ごう！」	1	1
学級活動	「ボールの行方」	1	1
合計			17

＜表1-2＞ 他教科から題材を取り上げている指導事例（3・4学年）

教科	題材	数	計
国語	「筆で書こう」	1	1
算数	「円と球」	1	1
理科	「チョウの一生」	2	4
	「チョウに変身」	1	
	「磁石の極の性質」	1	
社会	「町と仲良し」	1	3
	「市にのこる楽しいお祭り」	1	
	「チョウのたんけん〇〇へGO！」	1	
図工	「〇〇に変身」	1	2
	「身近な材料を変えて楽しむ」	1	
音楽	「リズムにのって表現しよう」	1	1
合計			12

＜表1-3＞ 他教科から題材を取り上げている指導事例（5・6学年）

教科	題材	数	計
国語	「短歌をおどろろ」	1	9
	「詩 われは草なり」	2	
	「詩 りんご」	1	
	「モチモチの木」	1	
	「やまなし」	1	
	「狼の物語（おおかみ王ロボ）」	1	
	「大造じいさんとガン」	2	
	「三角形と四角形」	1	
算数	「バクテリアの世界」	1	3
理科	「メダカ的一生」	1	
	「天気の変化」	1	
社会	「オートメーション工場」	1	3
	「よみがえる国士」	1	
家庭	「自動車がでるまで」	1	3
体育	「ミシン」	1	
	「バットとよけて一跳ぶ」(バスケットボール)	1	
音楽	「川」	1	2
	「山の魔王の宮でん」	1	
合計			20

「理科」が4事例「社会科」が3事例と多かった。「理科」から取り上げた題材には「チョウの一生」のように観察によるもの、「社会科」から取り上げた題材には町や市など地域活動によるものが見られた。

＜表1-3＞からわかるように、5・6学年は「国語科」「算数科」「理科」「社会科」「家庭科」「体育科」「音楽科」から20事例挙げられ、「国語科」が9事例と多かった。「国語科」から取り上げた題材には、物語や詩の読み取りを通したものが多く見られた。

「生活科」から多く題材を取り上げている1・2学年、「理科」「社会科」から多く題材が取り上げられている3・4学年では、体験をもとにイメージを広げる指導方法が多くとられており、「国語科」から多く題材が取り上げられている5・6学年では、言葉からイメージを広げる指導方法が多くとられていると考えられる。

3. 音楽教材の分析

(1) 音楽教材の分類

＜表2＞からわかるように、歌詞の内容（何について歌われたものか）からみると、1年生は①動物(14曲)、⑥人と生活(5曲)の順に多く取り上げられており、2年生は①動物(11曲)、⑥人と生活(5曲)、3年生は③自然現象(8曲)、①動物(6曲)、4年生は①動物(6曲)、⑥人と生活(6曲)、5年生は⑥人と生活(8曲)、③自然現象(6曲)、6年生は⑥人と生活(8曲)、③自然

＜表2＞ 音楽教材の分類（歌詞の内容から）

イメージの分類		1年	2年	3年	4年	5年	6年
Ⅰ 自然現象	①動物	14(41.2)	11(37.9)	6(26.1)	6(25.0)	2(9.1)	0(0)
	②植物	3(8.8)	1(3.5)	1(4.3)	4(16.7)	0(0)	1(5.0)
	③自然現象	3(8.8)	4(13.8)	8(34.8)	3(12.5)	6(27.3)	7(35.0)
	計	20(58.8)	16(55.2)	15(65.2)	13(54.2)	8(36.4)	8(40.0)
Ⅱ 生活現象	④物質	3(8.8)	2(6.9)	0(0)	1(4.15)	2(9.1)	1(5.0)
	⑤遊び・スポーツ	2(5.9)	2(6.9)	0(0)	1(4.15)	1(4.5)	0(0)
	⑥人と生活	5(14.7)	5(17.2)	2(8.7)	6(25.0)	8(36.4)	8(40.0)
	計	10(29.4)	9(31.0)	2(8.7)	8(33.3)	11(50.0)	9(45.0)
Ⅲ 思想・感情・抽象	⑦夢・物語	3(8.8)	2(6.9)	4(17.4)	3(12.5)	3(13.6)	3(15.0)
	⑧感情	0(0)	2(6.9)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
	⑨感覚	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
	⑩抽象概念	1(3.0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
	計	4(11.8)	4(13.8)	4(17.4)	3(12.5)	3(13.6)	3(15.0)
合計	⑪その他	0(0)	0(0)	2(8.7)	0(0)	0(0)	0(0)
		34(100)	29(100)	23(100)	24(100)	22(100)	20(100)

()内の数字は%

現象（7曲）という結果であった。1・2年生では圧倒的に多い「動物」に関する歌が学年が高くなるにつれて少なくなる傾向が見られ、6年生では一曲も取り上げられておらず、「自然現象」「人と生活」に関する歌が多くなっている。

また、大きな三つの分類Ⅰ自然現象、Ⅱ生活事象、Ⅲ思想・感情・抽象から見ると、どの学年にも三つの

分類に属する歌が見られ、幅広く選ばれていることがわかり、表現運動の題材として多様な選択が可能であると考えられる。

(2) 歌詞の分析

歌詞を分析した結果、歌の形式を次の5パターンに分類することができた。①主体1ー動詞1（歌詞の中に主体となる言葉が一つとその主体の動詞となる言葉が一つ存在する）、②主体1ー動詞2以上（歌詞の中に主体となる言葉が一つとその動詞となる言葉が二つ以上存在する）、③主体2以上（主体となる言葉が二つ以上存在する）、④イメージ（①～③の構造には含まれず、ある物・事象をイメージする多くの言葉により構成されている）、⑤動作（主体が明記されておらず、動きとなる言葉が主

である）である。

①主体1ー動詞1のパターンは、さらに次の5つに分類することができた。一つめは、はちーとぶ（♪ぶんぶんぶん）のように主体が動物で動詞は動物の動きや様子を表したものである。

二つめは、ちゅうりっぶーさいた（♪ちゅうりっぶ）のように主体が植物で動詞は植

〈表3〉 歌詩の分類

()内の数字は%

	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	
① 主体1ー動詞1	めだかの学校 ことりのうた ぞうさんのさんぽ ぶんぶんぶん かなつむり すずむしのでんわ しゃべるでほい	かっこう かえるのがっしょう こおろぎ たつのおとしこ いもむしごろごろ	うさぎ	まきばの子牛	小鳥ならは はばたけ鳥		
	ちゅうりっぶ きらきらぼし	木のはのゆうびん 春がきた 山びこごっこ	かぼちゃ 春の小川 雪のおどり どこかで春が	いろんな木の実 春の風 音のカーニバル		エーデルワイス	
	こいのぼり ばすばすはしる ひのまる				こいのぼり		
	12(35.3)	山のボルカ 9(31.0)	あわてんぼうの歌 6(26.1)	ティンティラ 5(20.8)	3(13.7)	1(5.0)	
② 主体1ー動詞2以上	ちようちよう べんぎんさん こいぬのマーチ ひらいたひらいた	小ぎつね こぐまの二月		とんび まいごのこひつじ きりりりとチャチャ もみじ			
	おもちのちやちや だるまさん タンプリンのわ シャボン玉	おむすびころりん おてんぼのヤングローズ		みんなのうちゅう船 ちびっこカウボーイ	星の世界 気球はぼくの夢のせて	星空はいつも 風を切って	
	5(14.7)	7(24.1)	3(13.0)	6(25.0)	4(18.2)	2(10.0)	
	いぬのおまわりさん こぶたぬきつね おんまはみんな 三びきのこぶた	ぞうさんとこりす 虫のこえ たぬきのたいこ	かえるのびよんた いるかはざんふん こねこと小鳥 ゆかいなまきば ゆかいな木きん	緑のしま馬 ジャンボゴリラと竹の子			
③ 主体2以上	どんぐりさんのおうち		森の中で		グリーングリーン だれも知らない	勇気一つを友にして	
	もりのくまさん 6(17.6)	3(10.4)	6(26.1)	3(12.5)	2(9.1)	1(5.0)	
	うみ そろそろはるです たなばたさま たきび おしょうがつ うれいひなまつり あいあい	アイアイ タヤケコヤケ 春ついでいいね ともだちのうた なかよしマーチ たのしいね	あの青い空のように あの雲のように ふじ山 春のまきば 茶つみ もしも海が空ならば ドレミ 歌えバンバン	さくらさくら アマリス まきばの朝 冬の歌 ゴーゴーゴー 茶色のこびん パレードホッホ 友だちはいいな 子どもの世界	青空へのぼろう それは地球 林の朝 冬げしき スキーの歌 口ふえふいて 静かにねむれ 子もり歌 大空がむかえる朝 グッティグッバイ いいね朝は はたるの光	おぼろ月夜 越天楽今様 風に向かい港に向かい 大空賛歌 夢をのせて 赤いやねの家 アンデスの祭り われは海の子 ふるさと さよなら友よ きょうなら 旅立つ日に あおげばとうとし 歌よありがたう つばさをください 銀河鉄道の歌	16(80.0)
	7(20.6)	6(20.7)	8(34.8)	9(37.5)	12(54.5)	16(80.0)	
⑤ 動作	じゃんけんぽん けんけんぽ てとてであいさつ とん(かん)はん(かん) 4(11.8)	かくれんぼ はしの上で さんぽ えがおできょうも 4(13.8)	0(0)	1(4.2)	1(4.5)	0(0)	
	合計 34(100)	29(100)	23(100)	24(100)	22(100)	20(100)	

物の動きを表したものである。

三つめは、春—きた（♪春がきた）のように主体が自然現象で動詞は自然現象の動きや状態を表したものである。

四つめは、ばす—はしる（♪ばすばすはしる）のように主体が物質で動詞は物質の動きを表したものである。

五つめは、あわてんぼう—おつかいする（♪あわてんぼうの歌）のように主体が人間で動詞は人の動きや行動を表したものである。

②主体1—動詞2以上のパターンも①と同様にさらに5つに分類することができる。しかし、こいぬ—なめる・ころぶ・なく・じゃれる（♪こいぬのマーチ）のように動詞が2以上存在する点で①の場合と異なっている。

③主体2以上のパターンは、さらに6つに分類することができる。一つめは、ぞうさん—来た・歌う・歩く、こりす—来た・歌う・歩く（♪ぞうさんとこりす）のように主体がいずれも動物になっている。

二つめは、どんぐり、そらまめ（♪どんぐりさんのおうち）のように主体がいずれも植物になっている。

三つめは、春—来る、夏—来る、秋—来る、冬—来る（♪森の中で）のように主体がいずれも自然現象となっている。

四つめは、ぼく—語り合った・知った・守った・知る・語り合う、パパ—言った・出かけた（♪グリーングリーン）のように主体がいずれも人間となっている。

五つめは、なぎさ—うつしておくれ、魚—きかせておくれ、夜空—歌っておくれ（♪だれも知らない）のように主体が動物と自然現象になっている。

六つめは、おじょうさん—出会った・落とした・歌う、くまさん—言う・ついてくる（♪森のくまさん）のように主体が動物と人間になっている。

＜表3＞は各歌唱教材がどのパターンに含まれるかを示したものである。①のパ

ターンは学年が進むにつれて少なくなり、④のパターンは学年が進むにつれて多くなっている。また、⑤のパターンが1・2学年に多く見られる。1・2学年は主体と動きの構造がはっきりした歌や動作が歌詞に含まれる歌が多く、学年が進むにつれて、特定した主体がなく、イメージをもとに歌われたものが多くなっていると考えられる。

4. 表現運動の指導事例の分析

(1) 題材の分類

＜表4-1＞からわかるように、1・2学年では、57事例中56事例に題材が明記されており、①動物、④物質に関する題材が多く、物質の中では「のりもの」「新聞紙」「おもちゃ」「粘土」が複数取り上げられていた。「3(1)音楽教材の分類」と比較すると、「動物」に関するものが多いという点で類似していた。また、「だるまさんがころんだ」「がさごそがさごそ何がいた」「とんとんとん何の音?」「ひらいたひらいた〇〇がでくるかな」のように、表現するものが次々に変化していくゲーム感覚のものが他の学年と比べて多いという特徴が見られる。

＜表4-2＞からわかるように、3・4学年では、87事例中に71事例に題材が明記されており、④物質、⑥人と生活に関する題材が圧倒的に多く、特に「ポップコーン」「新聞紙」「忍者」「祭り」が複数取り上げられていた。「3(1)音楽教材の分類」と比較すると、「人と生活」に関するものが4学年で多いという点で類似しているが、その他に類似点は見られなかった。

＜表4-3＞からわかるように、5・6学年では、59事例中42事例に題材が明記されており、③自然現象、⑦夢・物語に関する題材が多く、その中で「天気予報」「大造じいさんとガン」が複数取り上げられていた。また、「自然現象」に関するものが多いという点が「3(1)音楽教材の分類」と類似していた。

「ダンス用語とイメージ」⁷⁾にも同様の結

〈表5〉課題の分類

	1・2 学年	3・4 学年	5・6 学年	
①感情・動きの質課題	・ 壁い感じ 1	・ にぎやかに遊ぶ感じ ・ 楽しくにぎやかな感じ ・ ひょうきん楽しくにぎやかな感じ ・ やわらかい感じ ・ 軽くてやわらかい感じ ・ 重くてやわらかい感じ ・ 鋭く跳び散るような感じ ・ 勢いよく弾けるような感じ ・ 身軽で素早い感じ ・ かたい感じ ・ かたい機械的な感じ ・ 激しい感じ 1	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 1
	1		18	
②運動課題		・ 走る—止まる ・ 走る—跳ぶ ・ 走る—跳ぶ—止まる ・ 跳ぶ—転がる ・ 走る—跳ぶ—転がる ・ 伸びる—縮む ・ のびるのびる ・ 跳びだす—□ ・ いろいろなスキップステップ	5 2 2 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	0		16	
③詳細		・ 集まる—離れる	1	13
合計	1		35	16

〈表6〉動きを引き出す刺激

	1・2学年	3・4学年	5・6学年
①物質	・新聞紙 おもちゃ	1・ティッシュペーパー 1・新聞紙 ・時計	1・新聞紙
②音	2	2・音 ・音楽	1・音楽
③ビデオ	1	1・ビデオ ・写真 ・チョウ	1・ビデオ ・写真
④言語	1	・木	1 短歌 擬音語・擬態語
⑤体験	0	1 ・体験 ・野外観察	1 1 2
⑥粘土をつかった造形あそび	1	3 1	
⑦野外観察	1		
⑧歌遊び	6	4	0
計	11	20	

〈表7〉子どもからでてきたイメージの分類

()内の数字は%

分類	項目	1・2学年	3・4学年	5・6学年
①動物	・ 全般	1 (0.4)	1 (2.5)	3 (1.3)
	・ は乳類	2.8 (12.5)	7 (1.7)	10 (4.3)
	・ 鳥類	1.5 (6.7)	6 (1.5)	1 (0.4)
	・ はちゅう類	8 (3.6)	5 (1.2)	2 (0.9)
	・ 魚類	7 (3.1)	5 (1.2)	2 (0.9)
	・ 虫類	1.9 (8.5)	1.2 (3.0)	3 (1.3)
	・ その他 無脊椎動物	5 (2.2)	1.3 (3.2)	1 (0.4)
②植物		8.3 (37.1)	4.9 (12.2)	2.2 (9.4)
③自然現象	・ 刺激	0 (0)	3 (0.7)	1 (0.4)
	・ 自然・物体・物質	10 (4.7)	3.7 (9.2)	5.1 (21.9)
	・ 宇宙・空	8 (3.6)	1.7 (4.2)	6 (2.6)
	・ 抽象	0 (0)	2 (0.5)	1 (0.4)
④物質		1.8 (8.0)	5.9 (14.7)	5.9 (25.3)
	・ 物品	0 (0)	1 (0.2)	1 (0.4)
	・ 資材	2 (0.9)	1.2 (3.0)	8 (3.4)
	・ 衣料	2 (0.9)	1.3 (3.2)	5 (2.1)
	・ 食料	1.3 (5.8)	3.9 (9.7)	2.5 (10.7)
	・ 住居	1 (0.4)	6 (1.5)	3 (1.3)
	・ 道具	2.5 (11.2)	3.7 (9.2)	2.8 (12.0)
	・ 燈火	2.2 (9.8)	3.6 (9.0)	1.3 (5.6)
	・ 地類	1 (0.4)	2 (0.5)	1 (0.4)
		6.6 (29.5)	1.4 (3.6)	8.4 (36.1)
⑤遊び・スポーツ	・ 遊び	1.1 (4.9)	1.3 (3.2)	4 (1.7)
	・ スポーツ	5 (2.2)	1.7 (4.2)	5 (2.1)
		1.6 (7.1)	3.0 (7.5)	9 (3.9)
⑥人と生活	・ 身体	0 (0)	3 (0.7)	1 (0.4)
	・ 主体	5 (2.2)	1.5 (3.7)	5 (2.1)
	・ 行為	0 (0)	1.9 (4.7)	2.4 (10.3)
		5 (2.2)	3.7 (9.2)	3.0 (12.9)
⑦夢・物語		1.2 (5.4)	1.8 (4.5)	2 (1.0)
⑧感情		0 (0)	4 (1.0)	3 (1.0)
⑨感覚		0 (0)	0 (0)	1 (0.5)
⑩抽象概念		0 (0)	3.9 (9.7)	1.3 (5.6)
合 計		22.4 (100)	40.1 (100)	23.3 (100)

〈表6〉からわかるように、1・2学年では11事例であり、その内6事例が「粘土をつかった造形あそび」「野外観察」「歌遊び」などの⑤体験・遊びから動きを引き出していた。

3・4学年は20事例であり、その内10事例が「ビデオ」「写真」「チョウ(実物)」などの③視覚から動きを引き出していた。

5・6学年では7事例であり、その内3事例が「ビデオ」「写真」などの③視覚、2事例が「短歌」「擬音語・擬態語」の④言語から動きを引き出していた。

1・2学年では体験から動きを引き出し、学年が進むにつれて、視覚や言語から動きを引き出していた。この結果は「2. 他教科から題材を取り上げている指導事例」の結果と同様の傾向が見られた。

(4) 子どもからでてきたイメージの分類

〈表7〉からわかるように、子どもからでてきたイメージの種類は、1・2学年が224種類(31事例)、3・4学年が401種類(36事例)、5・6学年が233種類(20事例)であり、1・2学年では①動物(特にほ乳類・虫類・鳥類)、④物質(特に道具・燈火・食料)からのイメージが多く、3・4学年では、④物質(特に食料・道具・燈火)、③自然現象(特に自然、物体、物質)からのイメージが多いという結果が得られた。子どもからでてきたイメージは題材との関係が深いのではないかと考え、「4. (1)題材の分類」と比較すると、1・2学年では①動物、④物質が多いという点で共通しており、3・4学年では④物質、5・6学年では③自然現象が多いという点で類似していた。

また、学年が進むにつれて1・2学年に多くでている「動物」「植物」「夢・物語」がだんだん少なくなり、特に「動物」の著しい減少が見られ、逆に「自然現象」「人と生活」が多くなっている。

3つ以上の題材・課題からでてきたイメージを学年別にまとめたものが<表8>である。<表8>からわかるように、1・2学年と3・4学年の両方ででてきたイメージは「ねこ」「ぞう」「鳥」「かえる」「花」「たんぽぽ」「石ころ」「波」「ロボット」が挙げられ、3・4学年と5・6学年の両方ででてきたイメージは「風」「竜巻」「波」「ポップコーン」「花火」が挙げられ、全ての学年ででてきたイメージは「波」が挙げられた。

1・2学年は子どもたちの生活の身近に存在するものが多く、5・6学年は自然に関するものが多く、身のまわりの環境に目が向けられていると考えられる。また、3・4学年には1・2学年、5・6学年の両方の特徴が見られた。

<表8> 3つ以上の題材・課題に
でてきたイメージ

	1・2学年	3・4学年	5・6学年
① 動物	は手類 うさぎ ねこ いぬ ぞう	たまご ねこ ぞう 鳥	
	鳥類 鳥 かにわとり	かえる	
	は虫類 かえる おたまじゃくし へび かめ		
	魚類 魚 うなぎ うなぎ ちうちう		
	虫類 か はち だんご虫 トンボ カマキリ あり		
	無脊椎類 ザリガニ かたつむり		
	植物	かに	
	②植物	花	
	自然・物類・物質	たんぽぽ 石ころ 水 風	風 嵐 台風 地震 雷 波
	③自然現象	ハリケーン 竜巻 雷 波 嵐	竜巻 波
④ 物	素材	バナナ ゴム ゴム	縄
	食料	おだんご ポップコーン 綿あめ かき氷 もち ボール ヨーヨー 風船 花火 シャボン玉	わねたガラス ポップコーン 花火
	道具		
	⑤ 建造物	オートバイ 自動車 飛行機 船 ロボット	ロボット ロボット 風船機 風船機 忍者 忍者 人ごみ
⑥ 植物			

析することができなかった。

(6) 指導言語の分類

＜表10＞からわかるように、指導言語の種類は、1・2学年では308種類（44事例）で、⑨イメージ、⑧擬音語・擬態語、②空間、3・4学年では312種類（38事例）⑧擬音語・擬態語、⑨イメージ、②空間、5・6学年では181種類（20事例）で②空間、⑧擬音語・擬態語、⑨イメージの順に多いことから、どの学年においても「イメージ」「擬音語・擬態語」「空間」を指導言語に多く使っていることがわかる。

また、学年が進むにつれて「空間」「時性」「力性」「身体部位」「友達との関係」が多くなり、「イメージ」が少なくなっている。1・2学年ではイメージ、擬音語・擬態語から多く指導されており、学年が進むにつ

れて擬音語・擬態語、運動の質から多く指導されていると考えられる。

＜表11＞は①動き～⑦友達との関係に属する実際の指導言語を学年別にまとめたものである。

①動きを変化させる指導言語の中で、どの学年にも共通して使われている言語として、「歩く」「走る」「跳ぶ」「ジャンプ」「伸びる」「捻じる」「回る」「転がる」「揺れる」が挙げられ、これらは動きの基本であると考えられる。

1・2学年と3・4学年にのみ共通して使われている言語として「はねる」「滑る」「曲げる」が挙げられ、3・4学年と5・6学年にのみ共通して使われている言語として「縮む」が挙げられた。

②空間を変化させる指導言語の中で、どの学年にも共通して使われている言語として、水準を意識した「高い」「低い」、方向を意識した「あちこち」「右左」、広さを意識した「広い」「大きい」「小さい」「その場で」「遠く」が挙げられたが、面・経路を意識した言語の中で対象となる言語は見られなかった。これは、面・経路を意識した言語数が少なかったことによると考えられる。

1・2学年と3・4学年にのみ共通して使われている言語として、水準を意識した「大きい」「小さい」「上の方」「土の中」面を意識した「向き」、方向を意識した「あっち」「こっち」「前後」、広さを意識した「空」が挙げられ、3・4学年と5・6学年にのみ共通して使われている言語として、水準を意識した「天井まで」「立つ」「座ったままで」「寝ながら」、面を意識した「上」「横」、広さを意識した「体育館いっぱい」が挙げられた。学年が進むにつれて水準の中の姿勢に関する言語、空間を広く使う言語が多くなっている。

また、空間を変化させる指導言語の中には、（土の中よ）（葉っぱの下に）などのように間接的に空間を変化させる指導言語

＜表10＞ 指導言語の分類

		()内の数字は%		
要 因	項 目	1・2学年	3・4学年	5・6学年
①動き	・歩く	1(0.3)	1(0.3)	2(1.1)
	・走る	1(0.3)	2(0.6)	1(0.6)
	・スキップ	1(0.3)	1(0.3)	0(0)
	・とぶ	5(1.6)	3(1.0)	3(1.7)
	・滑る	1(0.3)	1(0.3)	0(0)
	・伸びる	1(0.3)	1(0.3)	2(1.1)
	・縮む	0(0)	1(0.3)	1(0.6)
	・捻じる	4(1.3)	1(0.3)	2(1.1)
	・回る	3(1.0)	2(0.6)	2(1.1)
	・揺れる	1(0.3)	1(0.3)	1(0.6)
	・曲がる	1(0.3)	1(0.3)	0(0)
	・くっつく	1(0.3)	0(0)	0(0)
	・手をあげる	0(0)	1(0.3)	1(0.6)
	・腕をふりまわす	0(0)	1(0.3)	0(0)
		20(6.5)	17(5.4)	15(8.3)
②空間	・水準	12(3.9)	20(6.4)	13(7.2)
	・面	5(1.6)	3(1.0)	9(5.0)
	・方向	7(2.3)	11(3.5)	10(5.5)
	・経路	3(1.0)	2(0.6)	3(1.7)
	・広さ	7(2.3)	10(3.2)	11(6.1)
		34(11.0)	46(14.7)	46(25.4)
③時性	・急変	6(1.9)	7(2.2)	2(1.1)
	・持続的	0(0)	2(0.6)	2(1.1)
	・速い	5(1.6)	4(1.3)	7(3.9)
	・遅い	3(1.0)	4(1.3)	3(1.7)
	・加速	1(0.3)	0(0)	0(0)
		15(4.9)	17(5.4)	14(7.7)
④力性	・強い	8(2.6)	9(2.9)	10(5.5)
	・弱い	7(2.3)	11(3.5)	4(2.2)
⑤身体部位		15(4.9)	20(6.4)	14(7.7)
		10(3.2)	16(5.1)	13(7.2)
⑥身体形		2(0.6)	2(0.6)	0(0)
⑦友達との関係		14(4.5)	16(5.1)	11(6.1)
⑧擬音語・擬態語	・人の動き	19(6.2)	7(2.2)	4(2.2)
	・感情・表情	1(0.3)	0(0)	0(0)
	・物の動き・変化	31(10.1)	43(13.8)	10(5.5)
	・形状・状態	26(8.4)	35(11.2)	18(9.9)
	・音声・擬音	16(5.2)	21(6.7)	11(6.1)
	・程度	2(0.6)	2(0.6)	0(0)
		95(30.8)	108(34.6)	43(23.8)
⑨イメージ	・動物	30(9.7)	10(3.2)	0(0)
	・植物	11(3.6)	7(2.2)	2(1.1)
	・自然現象	12(3.9)	12(3.8)	12(6.6)
	・物質	23(7.5)	24(7.7)	9(5.0)
	・遊び・スポーツ	7(2.3)	2(0.6)	1(0.6)
	・人と生活	4(1.3)	5(1.6)	1(0.6)
	・夢・物語	16(5.2)	10(3.2)	0(0)
	・感情	0(0)	0(0)	0(0)
	・感覚	0(0)	0(0)	0(0)
	・抽象概念	0(0)	0(0)	0(0)
		103(33.4)	70(22.2)	25(13.8)
		308(100)	312(100)	181(100)
合 計				

が見られた。

③時性を変化させる指導言語の中で、どの学年にも共通して使われている言語として、急変を意識した「パッ」、速さを意識した「速い」「勢い」、遅さを意識した「ゆっくり」が挙げられたが、持続的・加速を意識した対象となる言語は見られなかった。これは、持続的・加速を意識した言語数が少なかったためと思われる。

1・2学年と3・4学年にのみ共通して使われている言語として、急変を意識した「ピタッ」が挙げられ、3・4学年と5・6学年にのみ共通している言語として、速さを意識した「早い」、遅さを意識した「スロー」が挙げられた。

全体の傾向を見ると、1・2・3・4学年では急変を意識した言語が多いのに対

し、5・6学年では速さを意識した言語が多くなっている。また、急変を意識した言語には擬音語・擬態語が多く使われていた。

④力性を変化させる指導言語の中で、どの学年にも共通して使われている言語として強さを意識した「かたい」、弱さを意識した「ふわっ」「そっ」が挙げられ、擬音語・擬態語が数多く使われていた。

1・2学年と3・4学年にのみ共通して使われている言語として強さを意識した「強い」「よいしょ」「ぎゅっ」、弱さを意識した「やわらかい」「ふわふわ」「ふわり」と数多く挙げられていた。1・2・3・4学年では、強さを意識した言語と弱さを意識した言語の数があまり変わらなかったが、5・6学年では弱さを意識した言語より強さを意識した言語が多く見られた。

⑤身体の部位を意識させる指導言語の中で、どの学年にも共通して使われている言語として、「体全体」「手」「尻」「足」「足の先」「頭」が挙げられた。これらは身体を意識させる上で基本的な部位であると考えられる。

1・2学年と3・4学年にのみ共通して使われている言語として「腕」「へそ」が挙げられ、3・4学年と5・6学年にのみ共通して使われている言語として「ほっぺ」「首」「肩」「背中」「ひざ」が挙げられた。学年が進むにつれて、日常生活ではあまり意識して動かしていない部位を意識させる指導言語が多く使われていた。

⑥身体の形を変化させる指導言語については言語数が大変少なく、1・2学年と3・4学年に「丸く」が見られるだけであった。

⑦友達との関係を変化させる指導言語の中で、どの学年にも共通して使われている指導言語として、「一人で」「二人組」「グループで」「友達と」が挙げられた。これらは、友達との基本的な関係であると考えられる。

〈表12〉指導言語の分類—擬音語・擬態語

要 因	1・2学年	3・4学年	5・6学年
人の動き (全身)	転ぶ 倒れる 0(0)	0(0)	0(0)
	伏せ 歩く 0(0)	1(0.9)	0(0)
	7(7.4)	0(0)	0(0)
	2(2.1)	1(0.9)	1(2.3)
	止まる 1(1.1)	0(0)	0(0)
	震える 0(0)	1(0.9)	0(0)
	投げ 投げる 0(0)	0(0)	1(2.3)
	構え 構える 2(2.1)	1(0.9)	1(2.3)
	引 引ける 1(1.1)	0(0)	0(0)
	開 開ける 1(1.1)	1(1.1)	0(0)
(口)	食 食べる 1(1.1)	0(0)	0(0)
	19(20.0)	7(6.5)	4(9.3)
感情・表情	1(1.1)	0(0)	0(0)
物の動き・変化	進む 進む 4(4.2)	4(3.7)	1(2.3)
	飛ぶ 舞う 7(7.4)	10(9.3)	2(4.7)
	滑る 1(1.1)	0(0)	0(0)
	転がる 4(4.2)	4(3.7)	1(2.3)
	回る 2(2.1)	6(5.6)	1(2.3)
	巻く 1(1.1)	1(0.9)	0(0)
	落ち 落ちる 2(2.1)	2(1.9)	2(4.7)
	割れる 1(1.1)	0(0)	0(0)
	伸び 伸びる 2(2.1)	3(2.8)	0(0)
	消える 0(0)	2(1.9)	1(2.3)
	開 開ける 1(1.1)	2(1.9)	0(0)
	切 切る 1(1.1)	2(1.9)	0(0)
	打 打つ 2(2.1)	3(2.8)	0(0)
	叩く 0(0)	0(0)	1(2.3)
	貼る 貼る 1(1.1)	1(0.9)	1(2.3)
	くっつく 1(1.1)	1(0.9)	0(0)
	押 押さえる 1(1.1)	1(0.9)	0(0)
	31(32.6)	43(39.8)	10(23.3)
形状・状態	張る 張る 0(0)	1(0.9)	1(2.3)
	委縮 委縮 1(1.1)	1(0.9)	0(0)
	突 突く 1(1.1)	0(0)	0(0)
	着 着る 0(0)	0(0)	1(2.3)
	お おく 0(0)	0(0)	1(2.3)
	へ へくる 1(1.1)	0(0)	0(0)
	曲 曲がる 1(1.1)	1(0.9)	0(0)
	硬い 1(1.1)	1(0.9)	0(0)
	乱 乱れる 1(1.1)	2(1.9)	0(0)
	流れる 0(0)	2(1.9)	0(0)
	跳 跳ねる 1(1.1)	2(1.9)	7(7.0)
	沈む 1(1.1)	3(2.8)	5(11.6)
	ぬめ ぬめ 1(1.1)	2(1.9)	1(2.3)
	ぬる ぬる 1(1.1)	1(0.9)	0(0)
	降 降る 2(2.1)	4(3.7)	2(4.7)
	光 光る 3(3.2)	2(1.9)	0(0)
	浮 浮かる 2(2.1)	1(0.9)	0(0)
	立ち 立ち込める 1(1.1)	4(3.7)	2(4.7)
	吹 吹く 2(2.1)	1(0.9)	0(0)
	燃 燃える 1(1.1)	4(3.7)	0(0)
	26(27.4)	35(32.4)	18(41.9)
音声・擬音	鳴く 鳴く 2(2.1)	0(0)	0(0)
	鳴る 鳴る 4(4.2)	7(6.5)	5(11.6)
	響く 響く 1(1.1)	2(1.9)	2(4.7)
	つか つか 4(4.2)	6(5.6)	2(4.7)
	擦れる 2(2.1)	4(3.7)	0(0)
	燃える 割れる 3(3.2)	2(1.9)	2(4.7)
程度	少ない 16(16.8)	21(19.4)	11(25.6)
	暖かい 1(1.1)	0(0)	0(0)
	強い 1(1.1)	1(0.9)	0(0)
	0(0)	1(0.9)	0(0)
合計	2(2.1)	2(1.9)	0(0)
	95(100)	108(100)	43(100)

〈表13〉指導言語—擬音語・擬態語（全学年）

○題 ●音 ◎題音 *は辞書にない語句

要 因	1・2学年	3・4学年	5・6学年
人の動き (全身)	転ぶ 倒れる 伏せる	○ころん ○すってんころりん	○ぱっと
	歩く	○ちよこちよこ ○のっしのっし ○ちよこまか ○ちよろちよろ ○つつつ	○ちよこちよこ ○ひょいひょい
	動く	○ひょい ○ひょーん ○ひょんぴょん ●もぞもぞ	○ぱっと
	止まる	○さっと ○ぱっと	○びたっ
	震える	○びくびく	○びたっ
	投げる	○ぱっ	
	捨てる		○ぐっと
	構える	○そっと ○どっしり ○ぐいっ	○そっと
	引っ張る		
	(口) 開ける	●おわあ*	○ぱくぱく
感情・表情	食べる	○ぱくぱく	
		○のっそり	
		○きゅうん*	
	進む	○ぐんぐん ○ぐんぐん ○だんだん ○どんだん ●きーん	○ぐんぐん
	飛ぶ 舞う	●しゅー ○ひゅー ○びゅー ○びゅっ ○ひゅるるる* ○ひゅーん ○ふわふわ ○ふーん	○ひゅー ○ふわっ
	指る	●しゅー ○つるりん*	
	転がる	○ころころ ○ころころ ○ころん	○ころころ
	回る	○くるくる ●ぶるんぶるん ●ぶーん	○きりきり
	巻く	○くるくる	
	落ちる	●どっしん* ○ぼーん	○ひゅー ○ぼたん*
物の動き・変化	割れる	●ばりん*	
	揺れる	○ゆらゆら ○ぐにゅーん*	
	伸びる	○ひょろひょろ	
	消える	○すすすー* ○どろん	○ふーっと
	開く	○ぱっ ○ふあー*	
	切る	●ざくざく ●ちよきちよき	
	はがす		●ばりばり
	打つ 叩く	●ばしゃ ●ぼんぼん ○べたん ○べったん	
	貼る くっつく	○びたっと	○べちゃー
	押さえる	○ぎゅっと	

要 因	1・2学年	3・4学年	5・6学年
形状・状態	張る	○びーんと	○びんびん
	震える	○くしゃくしゃ	○くしゃくしゃ
	突き出る	○つんつん	
	へこむ	○べちゃんこ	
	くねる 曲がる	○ぐにやぐにや ○ぐにゅにゅ*	○くねくね
	硬い	○こねこね*	
	おうとつ	○ごつごつ	○ほこほこ
	乱雑 紛然	○ぐしゃぐしゃ ○ばらばら	
	箱割れる		○もこもこ
	流れる	●じゃーじゃー ●じゃー	●じゃー ○つつつ ●どどどどー*
音 声・擬音	跳ねる		●ざばっ* ●ばしゃばしゃ ●ばしゃ ●ばちゃー ●ばちゃばちゃ
		●びちゃびちゃ ●びちゃん	
	沈む ぬめる	●どっぽん* ○にょにょ	○ぐちゃちゃん*
	泡立つ	●ぶくぶく ○ぶつぶつ	●ぶつぶつ*
	降る	●ざーざー ○ぼつぼつ ○ぼつん ○ぼつん*	○ざざー ○ぼつんぼつん
	光る	○きらきら ○しゅわー* ○びかっびかっ	○しゅわー* ○びかっ
	浮く	○ふわっ ○ふわり	○ふわふわ ○ふわり
	上がる 立ち込める	○もくもく ○もやもや	○むくむく ○もくもく
	吹く	●ひゅー ●びゅー	●ひゅー ●びゅー
	吹きでる	●しゅるしゅる ●しゅー	●しゅるしゅる ○もにやもにや*
音 声・擬音	燃える	●ばちばち	
	焼く	●じゅー ●じゅうじゅう ●じゅっ ●じゅわー*	
	鳴く	●ががが ●げろげろ	●かちかち ●ぎぎぎ ●ぎぎぎぎ ●ちくたく ●どんどんちやちやっ*
	鳴る	●ごろごろ ●ばたばた	●がたん ●ぎぎぎ ●ばーん* ●ばーん* ●ばばーん*
	響く	●だだだーん ●ごごごー	●だだーん ●どーん ●かたがた
	ぶつか	●こつこつ ●こつ ●どすーん ●ばたんばたん	●がががが ●ががが ●こつこつ ●とんとん ●どーん
	揺れる	●がりがり ●ざわざわ ●しゅっ	●きりきり ●ざわざわ ●しゅっ
	爆発する 割れる	●どつかーん ●ばちちーん* ●ばーん*	●どかーん ●どーん ●ばーん
	程度	少ない 暖かい 強い	○ぼつん ○ぼかぼか ○ぐーん

1・2学年と3・4学年にのみ共通して使われている言語として「3人組」「2～3人」「人数を増やして」が挙げられた。

全体の傾向を見ると、1・2学年は「1人～2人」の「友達と一緒に」、3・4学年は「3人～4人」で「友達と関わって」、5・6学年は「5人～6人」で「グループ」が多くなっている。学年が進むにつれて関わりを持つ人数が増えていると考えられる。

＜表12＞は指導言語として使われていた擬音語・擬態語の数を分類毎に示したものである。1・2学年では『物の動き・変化』を表す擬音語・擬態語が最も多く、次いで『形状・状態』『人の動き』を表す擬音語・擬態語が多く使われていた。3・4学年では『物の動き・変化』『形状・状態』『音声・擬音』、5・6学年では『形状・状態』『音声・擬音』『物の動き・変化』を表す擬音語・擬態語の順に多く使われていた。

擬音語・擬態語の種類が多く見られるものとして、1・2学年では人の動きの中から「動く」、物の動き・変化の中から「進む」「飛ぶ・舞う」「転がる」、形状・状態の中

から「鳴る」「ぶつかる」「爆発する」が挙げられた。

3・4学年では物の動き・変化の中から「進む」「飛ぶ・舞う」「転がる」「回る」「揺れる」「打つ・叩く」、形状・状態の中から「跳ねる」「降る」「吹く」「焼く」音声・擬音の中から「鳴る」「ぶつかる」「擦れる」が挙げられた。

5・6学年では、形状・状態の中から「流れる」「跳ねる」、音声・擬音の中から「鳴る」が挙げられた。

＜表13＞は実際に指導言語として使われた擬音語・擬態語を学年別にまとめたものである。どの学年にも共通して使われている擬音語・擬態語として人の動きを表す「そっと」、物の動きや変化を表す「ぐんぐん」「ごろごろ」、形状や状態を表す「じゃー」「ざー」「もくもく」が挙げられた。

1・2学年と3・4学年にのみ共通して使われている擬音語・擬態語として、人の動きを表す「ひょい」、物の動きや変化を表す「ひゅーん」「ふわふわ」「くるくる」「ぶるんぶるん」「ぼーん」「ゆらゆら」「ぱっ」「ちょきちょき」「ぎゅっと」、形状・状態を表す「くしゃくしゃ」「ぐしゃぐしゃ」「ぽつぽつ」「しゅわー」「ふわり」「しゅるしゅる」、音声や擬音を表す「こつこつ」「ざわざわ」、程度を表す「ばかばか」と数多く挙げられた。3・4学年と5・6学年にのみ使われている擬音語・擬態語として、人の動きを表す「ぴたっ」、物の動きや変化を表す「ふわっ」、形状・状態を表す「ばしゃばしゃ」「ばちゃばちゃ」「ひゅー」「びゅー」が挙げられた。

＜表14＞はイメージによる指導言語の数を分類項目別にまとめたものである。1・2学年では①動物、④物質に関するイメージが多く使われており、3・4学年は④物質、③自然現象、5・6学年は③自然現象、④物質に関するイメージが多く使われていた。この結果は「4. (4)子どもからできたイメージ」の結果と同様であった。また、

＜表14＞ 指導言語の分類—イメージ

分 類		()内の数字は%		
項 目		1・2学年	3・4学年	5・6学年
①動物	・全般	2 (1.9)	0 (0)	0 (0)
	・ほ乳類	7 (6.8)	1 (1.4)	0 (0)
	・鳥類	4 (3.9)	1 (1.4)	0 (0)
	・はちゅう類	5 (4.9)	2 (2.9)	0 (0)
	・魚類	1 (1.0)	3 (4.3)	0 (0)
	・虫類	8 (7.8)	3 (4.3)	0 (0)
	・その他 無脊椎動物	3 (2.9)	0 (0)	0 (0)
②植物		3 0 (29.1)	1 0 (14.3)	0 (0)
③自然現象	・刺激	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	・自然、物体、物質	9 (8.7)	9 (12.9)	1 1 (44.0)
	・宇宙・空	3 (2.9)	3 (4.3)	1 (4.0)
	・抽象	0 (0)	0 (0)	0 (0)
④物質		1 2 (11.7)	1 2 (17.1)	1 2 (48.0)
	・物品	0 (0)	0 (0)	1 (4.0)
	・資材	1 (1.0)	5 (7.1)	2 (8.0)
	・衣料	6 (14.0)	0 (0)	1 (4.0)
	・食料	3 (2.9)	7 (10.0)	0 (0)
	・住居	0 (0)	1 (1.4)	0 (0)
	・道具	3 (2.9)	5 (7.1)	1 (4.0)
	・燈火	1 0 (9.7)	5 (7.1)	4 (16.0)
	・地類	0 (0)	1 (1.4)	0 (0)
		2 3 (22.3)	2 4 (34.3)	9 (36.0)
⑤遊び・スポーツ	・遊び	5 (4.9)	2 (2.9)	1 (4.0)
	・スポーツ	2 (1.9)	0 (0)	0 (0)
		7 (6.8)	2 (2.9)	1 (4.0)
⑥人と生活	・身体	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	・主体	2 (1.9)	1 (1.4)	1 (4.0)
	・行為	2 (1.9)	4 (5.7)	0 (0)
		4 (3.9)	5 (7.1)	1 (4.0)
⑦夢・物語		1 6 (15.5)	1 0 (14.3)	0 (0)
⑧感情		0 (0)	0 (0)	0 (0)
⑨感覚		0 (0)	0 (0)	0 (0)
⑩抽象概念		0 (0)	0 (0)	0 (0)
合 計		1 0 3 (100)	7 0 (100)	2 5 (100)

全体の割合を見ると、③自然現象、④物質に関するイメージは学年が進むにつれて多くなっているのに対し、①動物に関するイメージは学年が進むにつれて少なくなっている。

さらに細かい項目を見ると、1・2学年では、動物の中の「ほ乳類」「鳥類」「はちゅう類」、自然現象の中の「自然・物体・物質」、物質の中の「燈火」、遊び・スポーツの中の「遊び」の種類が多く見られた。

3・4学年では、自然現象の中の「自然・物体・物質」、物質の中の「資材」「食料」「道具」「燈火」、人と生活の中の「行為」が挙げられた。

5・6学年では、自然現象の中の「自然・物体・物質」、物質の中の「燈火」が挙げられた。

Ⅲ. まとめ

音楽科の歌唱教材の分析、及び、表現運動の指導事例の分析より、以下のことが明らかになった。

1. 表現運動の指導事例において、題材は、「生活科」「国語科」「算数科」「理科」「社会科」「図画工作科」「体育科」「音楽科」「家庭科」「学級活動」と全教科から取り上げられていた。1・2学年は「生活科」、3・4学年「理科」、5・6学年は「国語科」から多く取り上げられていた。動きを引き出す刺激についても同様であり、1・2学年は、体験を基にイメージを広げる指導方法、5・6学年では、言葉からイメージを広げる指導方法が多く取られてると考えられた。

2. 音楽科の歌唱教材は、1・2学年では「動物」「人と生活」、3学年は「自然現象」「動物」、4学年は「動物」「人と生活」、5・6学年は「人と生活」「自然現象」から多く取り上げられていた。また、どの学年も、「自然現象」「生活事象」「思想・感情・抽象」と多岐に渡って選曲されており、表現運動の題材として多様な選択が可能であることが示唆された。

3. 歌詞については、1・2学年は、主体と動きの構造が明確なものや、動き自体を歌にし

たものが多く、学年が進むにつれて、特定した主体がなく、イメージを基に歌われたものが多い。

4. 表現運動の指導事例では、1・2学年は「動物」「物質」、3・4学年は「物質」「人と生活」、5・6学年は「自然現象」「夢・物語」に関する題材が多く見られ、1・2学年では、「動物」、5・6学年では、「自然現象」が多いという傾向は、歌唱教材と同様であった。

5. 子どもからでてきたイメージは、1・2学年は「動物」「物質」、3・4・5・6学年は「物質」「自然現象」が多く、歌唱教材、表現運動の題材と同様な傾向であった。

6. 指導言語は、どの学年においても「イメージ」「擬音語」「擬態語」「空間」が多く使用されていた。学年が進むにつれて、「イメージ」の割合が減少し、「動きの要因」に関する言語が増加していた。「時性」「力性」に関する指導言語には、擬音語、擬態語が多用された。指導言語に見られる擬音語、擬態語は、1・2学年では「物の動き・変化」「形状・形態」「人の動き」、3・4学年では「物の動き・変化」「形状・形態」「音声・擬音」、5・6学年では「形状・形態」「音声・擬音」「物の動き・変化」を表すものの順に多く使用されていた。

7. イメージによる指導言語は、子どもからでてきたイメージと同様な傾向であり、子どもが浮かびやすいイメージが使用されていると考えられた。

参考文献

- 1) 浅野鶴子：擬音語・擬態語辞典，角川書店，1978
- 2) 金沢大学教育学部附属小学校：自己創造的表現，公開研究会紀要49集，1995
- 3) 鹿島郡鳥屋町立鳥屋小学校：表現活動を通して自分の世界を広げることができる子に—国語科，集会活動を通して—，公開研究会要項，1995
- 4) 鹿島郡鹿西町立能登部小学校：生き生きと自ら学ぶ子を育てる—柔軟な活動を通して個の表現力を伸ばす，公開研究会要項，1995
- 5) 国立国語研究所：分類語彙表，秀英出版，1984
- 6) 松本千代栄：課題学習とダンス・イメージ—舞踊連想用語の収集・分析—，1982

- 7) 日本教育大学協会保健体育・保健研究部門全国
舞踊研究会：大学専門教育改善のための現職教
員のダンス指導実践に関する調査研究，1994
- 8) 柴真理子：身体表現～からだ・感じて・生きる
～，東京書籍，1993
- 9) 尚学図書言語研究所：擬音語・擬態語の読本，
小学館，1991